

京都御苑オープンデータ マッププロジェクト

活動場所：上京区 活動開始：平成27年8月～

京都朱雀ロータリークラブ × 有限責任事業組合タク・タク 京都府
京都観光オープンデータ協議会 京都市
環境省 京都御苑管理事務所

■ 地域が抱えていた課題

京都では外国人観光客が年々増加傾向にあるが、外国人観光客はその歴史や文化について知る機会が決して多くなく、その魅力の深さに気づきにくい現状にある。そこで、京都の歴史・文化の深い京都御苑から、その魅力を正しく伝え、より深い魅力を外国人観光客に体験してもらう。

■ 取組（連携）のきっかけ

上記の課題意識が、地域の奉仕活動を進める有限責任事業組合タク・タク、京都朱雀ロータリークラブにあり、課題解決を協働で進めることを提案されたのがきっかけで、京都で学ぶ大学生と留学生でプロジェクトチームを結成した。

■ 具体的な連携の取組

上記2団体の社会人と学生チームを中心にフィールドワークを実施し、歴史・文化の調査から地域の魅力を抽出し、web上の地図であるオープンデータマップと4か国語（日・英・中・韓）に翻訳した観光マップを作成した。翻訳は日本独自の表現がわかりやすく伝わるよう、外国人留学生と協働して行った。

また、活動の成果報告を兼ねて「京都御苑オープンデータマップシンポジウム」を開催し、その成果を発信するとともに、京都の魅力について考える機会を創出した。

■ 今後の活動

学生と地域の連携により、地域の魅力を発見・発信する、ひとつの連携モデルとして、他地域における同様の課題解決も挑戦していきたい。また、作成した観光マップのバージョンアップも検討中である。

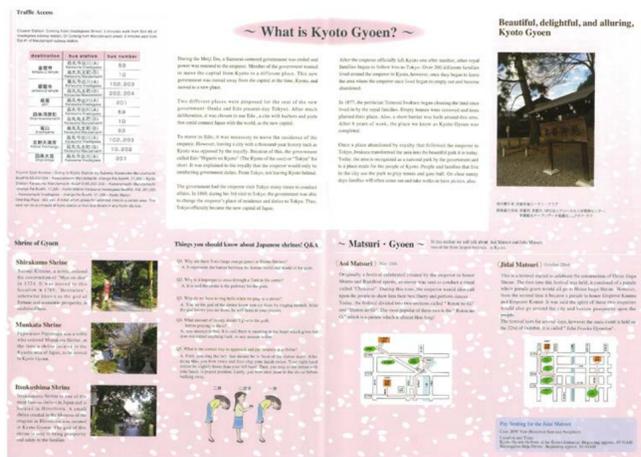
■ 成果

①大学・学生の視点

自身が学ぶ地域についての興味関心を高め、同時に京都で学ぶことの意義を再認識する機会となった。また、活動には留学生も参加し、双方において京都への愛着が育まれた。

②地域の視点

若者と外国人留学生の視点を取り入れたことで、わかりやすく京都の歴史・文化の魅力を発信するモデルとなった。



京都御苑マップ

活動写真



京都御苑オープンデータマップシンポジウム



留学生とのマップの翻訳ワークの様子



ミーティングの様子



京都御苑オープンデータマップシンポジウムでの学生発表の様子



京都御苑フィールドワークの様子



京都御苑フィールドワークのふりかえり

